

月報だより

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

理化学研究所

1. 研究員 1 名
2. (1) 理化学研究所計算科学研究室
(2) 埼玉県和光市
3. 計算科学、計算化学、物理学
4. 理化学研究所計算科学研究室ではたんぱく質や結晶、界面の大規模シミュレーションを可能にするために、分子動力学用の超高速専用計算機を開発中である。また、スーパーコンピュータを使った大規模シミュレーションの実行やそのための大規模並列化アルゴリズムの開発を進めている。採用者にはこれらの計算科学研究室の活動の中心となって働いて頂く。候補者は計算機のハードとソフト両方に造詣が深く、大規模数値シミュレーションの経験があることが望ましい。これまで活動してきた分野は問わない。
5. (1) 1998 年 4 月 1 日以降の所定の日
(2) なし
6. 博士の学位を有するか、採用までに取得予定の方。1998 年 2 月 2 日の時点で満 35 歳以下であること。
7. ○履歴書、○業績リスト、○推薦書 2 通、○主要論文別刷、○着任後の研究計画案と抱負（2000 字程度）
8. 1998 年 1 月 20 日（火）必着
9. 〒351-01 埼玉県和光市広沢 2-1
理化学研究所計算科学研究室 戎崎俊一宛
TEL 048-467-9414 FAX 048-467-4078

★封筒に「計算科学研究室研究室研究員応募書類在中」と朱書き、書留で送付のこと。

稚内北星学園大学（北海道稚内市に 2000 年開学予定）教員公募

1. 教授、助教授または講師 1 名

2. 総合情報学部
3. 情報科学
4. 情報科学の基礎理論の講義
5. 2000 年 4 月または 2001 年 4 月
6. 博士の学位を有すること（取得見込みを含む）

1. 教授、助教授または講師 1 名
2. 総合情報学部
3. 情報科学
4. OS 論またはネットワーク理論
5. 2000 年 4 月または 2001 年 4 月
6. 上記の分野で優れた研究業績または実務業績を有する方。

1. 教授、助教授または講師 1 名
2. 総合情報学部
3. 自然科学
4. 一般教養の自然科学分野の講義
(専攻分野は特に問わない)
5. 着任時期：2000 年 4 月または 2001 年 4 月
6. 博士の学位を有すること（取得見込みを含む）

(以下共通)

7. 履歴書、教育研究業績一覧（文部省規定の個人調査の形式に従ったものを郵送します）、主要な著書もしくは論文の別刷（コピー可）、該当分野の研究および教育への抱負（1500 字程度）
8. 1998 年 2 月 28 日（必着）
9. 〒097 北海道稚内市若葉台稚内北星学園短期大学内 4 年制大学人事計画委員会
担当 経営情報学科長 植田龍男
E-mail: jinji@wakhok.ac.jp
Tel 0162-32-7511 Fax 0162-32-7500
10. 稚内北星学園大学は現行の稚内北星学園短期大学を改組転換し、情報系の 4 年制大学として 2000 年開学を目指しています。
11. 新設大学の申請のために 1998 年 9 月までに赴任の意志も含め文部省提出用の個人調査の作成が必要となります。ただし、実際の着任は 2000 年 4 月の開学以降となります。

研究助成

山田科学振興財団研究援助候補推薦

山田科学振興財団より本会宛に、下記内容の 1998 年度研究援助候補の推薦依頼がありましたのでお知らせ致します。

(推薦要項抜粋)

- 1. 援助の対象：自然科学の基礎的研究
(実用指向研究は対象外)
 - 2. 援助の金額：1件当たり100～500万円の援助を10件
 - 3. 推薦件数：1推薦者ごとに2件以内
- ★申請用紙をご入用の方は、学会事務室までお申し出下さい。申請書は、1998年2月28日までに下記宛に提出して下さい。

宛先：〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台内 社団法人 日本天文学会

研究会・集会案内

東京大学理学部天文学教育研究センター木曾観測所「銀河学校」開催のお知らせ

「銀河学校に集まれ、天文少年少女」

東京大学理学部天文学教育研究センター木曾観測所には、世界第4位のシュミット望遠鏡があり、宇宙の果てにある銀河から彗星に至る様々な天体の研究に利用しています。若い世代の皆さん、この研究用大型望遠鏡を使ってみませんか。今年の銀河学校ではオリオン座をテーマに星が誕生する現場を赤外線観測したり、天体写真を撮る事を計画しています。関心のある方は、下記の要領で応募して下さい。

観測内容：星が現在生まれつつあるオリオン座 NGC2024 星雲とオリオン大星雲

期 日：3月24日 13時30分 JR 木曾福島駅前集合
3月26日 15時 JR 木曾福島駅前解散

対 象：高校生または相当年齢の方 30名

費 用：交通費自己負担滞在費無料

応募方法：「私の一番好きな天体」という題で4百字詰原稿用紙2枚程度の作文を2月15日必着で木曾観測所宛にお送り下さい。選考の結果は2月末日までに各人宛通知致します。住所、氏名、年令、性別、電話番号を明記して下さい。

宛 先：〒397-0101 長野県木曾郡三岳村
東京大学木曾観測所
TEL 0264-52-3360 FAX 0264-52-3361

★内容に関するお問い合わせは、木曾観測所 田中由美子宛にお願い致します。

研究情報案内

「彗星の命名法に付いての希望・要望・意見収集について」

彗星会議運営委員長 渡部潤一
国際天文学連合第20委員会 長谷川一郎

彗星の命名法に付いては、ここ数年にわたって国際天文連合第20委員会において、様々な議論が行われてきました。幸いなことに、彗星の発見者3人から2人にするという案は、京都で開催された委員会において否決され、従来通り発見者名として最大3人までの名前がつけられることが決定されました。しかしながら、命名方法の変更に関しては、引き続き議論が行われています。例えば符号以外に付けられる名前の付け方に関しても、現在の方式では、周期彗星でないものについては、どれもおなじ名前に成ってしまう欠点があります。(例：百武彗星 1995Y1、百武彗星 1996B2 は、どちらも周期彗星ではないので、百武彗星となってしまうと区別できない)これを周期彗星と同じように番号付けをしようという案も提案されています(百武第1彗星、百武第2彗星のように)。さらには、同じ名字であっても、別人の場合の区別はどうすればよいか、などいろいろなケースが予想されます。いずれにしろ、日本の彗星捜索者・アマチュア天文家にとっては、たいへん重要な問題であり、8月末に海外研究者を交えて開催された彗星・小惑星合同会議では実に熱い議論が交わされました。その結果彗星会議運営委員会では、彗星の命名法に関する日本のアマチュアの希望や要望を広くとりまとめ、これを第20委員会へ提出することになりました。ついては、これをお読みにになり、ご意見のある方は、下記の運営委員長・渡部潤一まで、ご連絡下さるようお願いいたします。一応、1998年3月末に佐治天文台で開催される彗星会議までにとりまとめ、これらを英訳の上、第20委員会の彗星命名に関する委員あてに送付する予定です。

意見の宛先 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台内広報普及室内 渡部潤一

編集委員 末松芳法(編集長)、上野宗孝、大橋正健、小谷太郎、辻本拓司、野口邦男、平野尚美、宮坂正大
平成9年12月20日 発行人 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円(本体667円) 発行所 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
電話(0422) 31-1359(事務室) 5488(月報・欧文編集) 5487(FAX専用) 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のホームページ <http://www.tenmon.or.jp> 月報編集 e-mail: gjim@tenmon.or.jp